

「嘉田県政と日本共産党の立場」(7月30日付滋賀民報への原稿) 森しげき

知事選挙で県民は、「オール与党」県政がすすめてきた新幹線新駅計画をはじめとするムダづかいや、暮らし破壊に対して「ノー」の審判を下しました。この選挙で、日本共産党も加わった「民主県政の会」は、県民本位の県政をめざすという大義を掲げて戦いましたが、残念ながら当選できませんでした。しかし、むだなダム建設、新幹線新駅設置という開発推進型の自民・民主・公明推薦の現職が大差で敗れ、自民党主導の県政への審判の原動力となりました。こうした闘いの結果生まれた新しい県政のもとで、知事選挙に示された県民の願いの実現のために議会内外で奮闘することは、県民の利益擁護と県政の流れを県民本位に変えていくうえで、いま日本共産党が果たさなければならない役割です。私たちは、この立場から嘉田県政に対応していくものです。

嘉田新知事は7月県議会を前にして、各党派に懇談を申し入れてきました。懇談は21日、各派いっせいに開催され、日本共産党滋賀県議会議員団も知事公館で話し合いました。

知事との話し合いの冒頭で、私は嘉田県政に対する日本共産党の基本的態度について、知事に次のような考えを述べました。

「今度の知事選は、税金のムダづかいを進める一方で、県民の暮らしを破壊する逆立ちしたこれまでの県政を、県民本位の新しい県政、新しい流れに切りかえる、大きな意義をもつものになったと考えます。激戦を勝ち抜いて嘉田知事が当選されたことに、心からのお祝いを申し上げます。

知事は、新駅・ダム・大型焼却炉について『もったいない』として、凍結・見直しの公約をかかげてこられました。昨日の職員への知事就任挨拶でも、知事は『選挙で3つの大型事業の凍結を提示しました。栗東新幹線新駅、びわこ周辺の6つの大型ダム、大津市北部の廃棄物処分場です』『これが県民の審判という意味では、厳粛に受け止め、その解決の実現に向けて全力であたっていたきたくお願いいたします』といわれました。われわれは県民とともに、知事のこの決意と力をあわせ、それらの公約実現のために、全力をつくして奮闘するものです。

障害者自立支援法にかかる県独自の補助制度の創設や、35人学級の実現はじめ、知事が県民の暮らし応援の公約をされたことに対しても、議会内での論戦をはじめ、議会外でも県民運動を強めて知事を支えてがんばります。

もちろん、問題があると考えるときは率直に指摘して、県民のための県政実現のために誠実に対応したいと考えているのでよろしく申し上げます。」

こうした見地を表明する背景についても、知事に次のように説明しました。

「このほど開いた日本共産党第 2 回中央委員会総会で、現在の情勢は自民党と国民との矛盾が劇的にすすみ、大きな政治の流れの変化が起こっていること、その変化をつくりだすうえで、各分野の国民の闘いの前進に日本共産党が大きな役割を果たしてきたことを解明しました。今回の、県知事選挙は、そうした変化が滋賀県でも絵に描いたようにあらわれたと考えています。

実際、われわれは、県民世論と運動こそ政治を変える力との観点から、びわこ空港直接請求署名以来、上からの押し付け合併阻止、乳幼児医療費無料化拡大、35 人学級の実現、高校全県一学区制許さない、私学助成堅持、障害者の暮らしを守る運動、RD 問題や志賀町での大型焼却炉、ダム問題、憲法 9 条を守る、あいば野基地での日米合同演習反対など、県民の切実な運動を掲げて県民の皆さんと力をあわせて奮闘してきました。結果、びわこ空港も阻止し、乳幼児医療費の対象年齢拡大や、35 人学級などを実現するとともに、びわ町・日野町・志賀町では首長も実現するなど多くの成果も上げることができました。

今回の知事選は、これら住民運動の積み重ねのなかで、前知事とそれを支えるオール与党政治が、県民の矛盾を激化させてきたうえに、知事の『もったいない』の呼びかけとがあい結んで、県政の流れを変える力として花開いたものと思います。知事選が県政の流れを大きく変えただけでなく、全国の流れを変える上でも大きな衝撃を与えたと確信している」としました。

嘉田新知事は、「みなさんとは選挙で争ったが、ベクトルは近い方向で行かしていただいたのではないかと思っている」としました。そして戦後 60 年続いた政治を変えなければならない時代に来ていると、これまでの県政運営～琵琶湖総合開発や流域下水道、圃場整備、新幹線新駅やダムのさまざまな問題点にふれました。

選挙後の県議会の状況の特徴は、日本共産党以外の各党が、選挙戦で示された県民の審判の前に、これまでの路線を転換するのかどうか、大きな岐路に立たされ苦悩しています。嘉田新知事が職員訓示で推進すると宣言した 3 つの政策については、日本共産党県議団のみが県民とともに、その実現のために奮闘することができる状況となっています。

わが党が選挙で争ったことは、県民本位の県政をつくるうえで大きな意義をもっていました。嘉田氏が知事となった今日、積極面の実現のために議会内外で奮闘することは、県政の流れを県民本位に変えて行くうえで、いま日本共産党が果たさなければならない役割だと考え、知事への対応の基本を明確にしたところです。

日本共産党は、県民の願いを実現するために、県議会で論戦を展開するとともに、県民の皆さんと手を携えて広く運動をつくりだしていく決意です。